

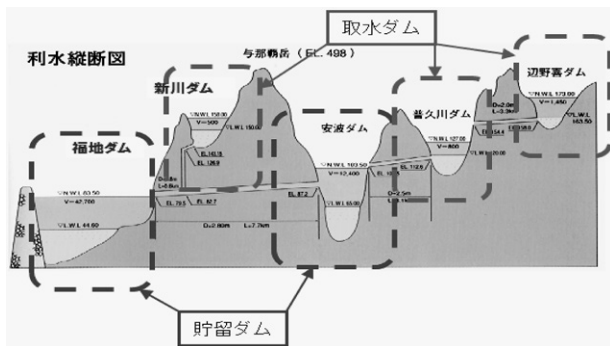
— 沖縄総合事務局 —

沖縄北部5ダム「日本ダムアワード2018低水管理賞受賞」について

1. はじめに

沖縄本島北部河川総合開発事業で建設された北部5ダム（福地、新川、安波、普久川、辺野喜）では、各ダムの貯水池を水路トンネル（調整水路）で結合して統合運用を行い、ダム貯水容量の有効利用を図っている。

具体的な運用方法は、貯水容量の小さな新川、普久川、辺野喜ダムを「取水ダム」、貯水容量の大きな福地、安波ダムを「貯留ダム」と位置づけ、「取水ダム」の流入量が調整水路の流下能力より小さい場合には「貯留ダム」に導水し、逆の場合には流下能力以上の流入量はいったん「取水ダム」に貯留し、流入量が減少するに従い貯留された流入水も順次「貯留ダム」に導水するものであり、単独運用の場合と比較して約1.2倍の都市用水を開発することが可能となり、利水運用のための最大限の活用を行っている。これらの統合運用により北部5ダムで開発される水量は、本島で使用される水量の約5割を占めている。



2. 平成30年の貯水状況

平成29年秋頃から平成30年春にかけては、少雨傾向が続き、その後も空梅雨の状況が続いたことから北部5ダムの貯水率は、40%代まで落ち込んだ状況であった。その後、約9年ぶりに沖縄渇水対策連絡協議会を開催し、今後の対応を関係機関で協議し県民に節水の協力をお願いしていたところ、前線と台風による降雨があり、貯水率は大幅に回復することができた。

3. 「日本ダムアワード2018低水管理賞」

今回の利水補給を受け、この1年で最も印象に

残った低水管理を行ったダムとして、沖縄北部5ダムが、日本ダムアワード2018「低水管理賞」を受賞した。日本ダムアワードとは、一年間のダムの活躍を振り返り、ダムファン有志による選考委員が様々な角度から活躍したダムをノミネート、選考委員と観客による投票にて各部門で今年最も印象に残る働きをしたダムを選出し、その功績を讃えよう、というイベントで「ダムファンによるダム版アカデミー賞」と呼ばれている。

4. おわりに～受賞の様子～

低水管理賞の授与にあたっては、イベントの総合プロデューサーであり、沖縄北部5ダムのプレゼンターでもある萩原雅紀氏が沖縄まで足を運んでくださり、萩原氏からは、受賞の理由として、沖縄では毎日のようにTVや新聞で貯水率が報道され、県民一丸となって渇水を認識し水を大切に使用していたこと、沖縄北部5ダムがうまく連携して水を有効活用したことが評価されたと紹介され、記念盾の授与となった。その後、新垣哲事務所長からは、沖縄本島内の限られたダムの適地が少ない中で水資源開発を行ってきたこと、北部5ダムの統合運用以外にも、県内の全ダムの日々の利水調整を実施し効率的な水利用を行っている事の紹介を交えながら、受賞に対するお礼の挨拶となった。



「低水管理賞」授与式 記念撮影

また、最後には、当日、ダム研修で来所していたミス沖縄の一人一人からも受賞のお祝いの言葉を頂き授与式は滞りなく終えることができた。

(内閣府沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 管理課長 三田美 修作)